

No. 90 >>> Contents

●一般財団法人大日本蚕糸会から

- 暑熱対策について・・・・・・・・・・一般財団法人大日本蚕糸会 ――― ①
- 「蚕糸の日2026フォーラム」を開催
・・・・・・・・・・一般財団法人大日本蚕糸会 企画調整部 ――― ⑤
- 「カイコを育てよう！2026」
ー全国蚕糸関係博物館横断キャンペーンー・・・・一般財団法人大日本蚕糸会 ――― ⑥
- 明治神宮外苑創建百年記念
「聖徳記念絵画館の巨大壁画にせまる」特別展・催事のお知らせ
・・・・・・・・・・明治神宮ミュージアム ――― ⑦

●トピックス

- 生糸の産地判別について・・・・独立行政法人農林水産消費安全技術センター
高嶋康晴 坂井田健一 森田美文 ――― ⑧
- 養蚕研修を経て得た新たな視点
・・・・・・・・株式会社 HOSOO・株式会社 KYOTO SILK HUB 菅野純平 ――― ⑩

●研究・技術情報

- 日本のクワはどこから来たのかーゲノム解析から解き明かす起源と変遷ー
・・・・信州大学基盤研究支援センター 遺伝子実験支援部門 教授 松村英生 ――― ⑬
- 令和7年度桑園実態調査から見た国内桑園の現状 Vol.2
・・・・・・・・一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸専門員 小山朗夫 ――― ⑮

●海外情報

- タイ王国からの研修生を迎えて
・・一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所 竹村洋子 池嶋智美 ――― ⑰

●イベント情報

●一般財団法人大日本蚕糸会から

- 令和8年度貞明皇后研究助成採択一覧（9件） ――― ⑳
- 2026年度第1次分の純国産絹マーク使用許諾状況 ――― ㉑
- 活動日誌 ――― ㉓

●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）―― ㉔

大日本蚕糸会では、令和8年度から新たな中期事業計画に沿って各種取組を進めます。その中で、近年、養蚕現場で課題となっている暑熱対策について、下記の通り取りまとめました。

暑熱対策について

近年、夏季の異常高温が常態化することにより、蚕病被害の頻発、初秋蚕期の繭の生産量の減少、品質低下等が報告されている。

このような状況に対処し、繭の安定的な生産、品質の維持を確保するため、当面以下の対応を行うこととする。

1 研究開発

蚕糸科学技術研究所において、以下の研究開発に迅速に取り組む。

- (1) 近年夏季の高温によるカイコの発育や上簇に及ぼす影響が顕在化しており、繭重・繭質等で既存品種の性能が十分発揮されていないことが報告されていることから、耐暑性蚕品種の形質改善に資するための研究を行う。
- (2) 蚕病防除の徹底を図るため、種繭生産から繭の生産に至るまでの各段階において、どのような対応が有効なのか検討する。特に、膿病への更なる対策技術として、新たに蚕種の卵面消毒法と回転簇の物理的消毒法の検討等を行う。
- (3) 桑園管理について、温暖化の影響等で近年多発傾向にあるアメリカシロヒトリの発生予察を行い、防除適期の推定と今後の防除法を検討する。

2 養蚕農家に対する技術指導

- (1) 蚕糸科学技術研究所は、関係機関と連携して、必要があれば研修会を開催する等により、養蚕農家に対して蚕病予防対策の技術指導を行う。
また、県協議会等が蚕病対策について技術指導・情報提供活動を行う場合には、蚕糸科学技術研究所からの専門家の派遣、経費の一部負担等の支援を行う。
- (2) 一部の地域で蚕病流行の兆しがあった時には、県協議会等に蚕糸科学技術研究所への報告を求め、同研究所において速やかに原因を究明し、他の地域に対しても、注意喚起や蚕病の発生防止対策の実施を求めるシステムを構築する。

3 養蚕農家の暑熱対策のための施設整備に対する支援

養蚕農家が、暑熱対策のために必要な施設、機器（例えば、空調設備、屋根散水施設等）の整備を行う場合は、特認事業の仕組みも活用して、その効果を検証しつつ、その整備に要する費用の一部を助成する。【別紙参照】

4 その他

蚕病、猛暑の結果、繭の生産量の減少、品質の低下等による収益の減少に対応するため、養蚕農家に対して蚕繭共済制度、収入保険制度への加入を促す。

【コラム】スマートバルブの屋根散水で暑熱と蚕病予防を両立！

群馬県富岡市で養蚕を営んでいる高橋直矢さんは、令和6年から暑熱対策として蚕室の屋根散水を始めましたが、晩秋蚕では連続散水の影響で座ムレが起こり、膿病が発生してしまいました。

この状況を踏まえ、いろいろ検討の結果、令和7年はアプリで散水間隔を設定できるスマートバルブを導入しました。20分おきに30分の散水を繰り返すことにより、座ムレを抑えつつ、外気温が35～38℃でも、蚕室内は30℃前後に保つことができました。

夏秋蚕期の暑熱対策の強化と、除湿の手段の確保により、繭質と収量の一層の向上を目指したいと意気込んでいます。

**持続的蚕糸業確立支援事業実施要領（以下「実施要領」という。）第4の6の
特認事業（暑熱対策としての機器・施設等の整備事業）について**

実施要領第4の4の(1)生産条件整備事業における補助対象は、養蚕に係る機械・施設の整備であり、1件当たりの補助金の下限額は30万円と規定している。

しかし、近年、異常高温による繭の品質低下、生産量の減少が顕在化していることを踏まえ、今まで補助対象機器としていなかった汎用機器（エアコン等空調機器）及び補助金の下限額30万円以下の機器・施設（屋根散水設備や耐熱シート等）整備についても、特認事業として実施する。

1 事業の内容

暑熱対策として有効と考えられる機器・施設等の整備について、養蚕農家等からの申請に基づいて支援するものとする。

2 採択要件

- (1) 今後とも引き続き養蚕経営に取り組む意欲と能力があること。
- (2) 繭生産計画が概ね300kg以上の者であること。
- (3) 生産した繭の過半が生糸・真綿の原料として用いられること。
- (4) 設置場所（蚕室・上簇室等）の温湿度計測を行うとともに、そのデータを基に県協議会等の指導・助言が受けられる体制が整っていること。なお、県協議会等が存在しない地域の者にあつては、大日本蚕糸会から直接、指導・助言を受けることができる。

3 事業実施主体

養蚕農家等

4 補助率 1/2以内（設置場所（蚕室・上簇室）が居室と共用の場合には1/4以内）

5 事業実施計画及び補助金申請

- (1) 別添申請書を作成の上、県協議会等の代表者を經由して提出するものとする。なお、県協議会等が存在しない地域の者にあつては、直接提出することができる。
- (2) 申請書の「1事業の目的」には、次の項目についても説明すること。
 - a. 機器・施設等の種類が夏季に蚕室の温度を引き下げる効果のあることが確認されているものであること。
 - b. 機器・施設等の規模や設置場所等がその機能を十分発揮できるような条件を満たしていること。
 - c. 機器・施設等の導入に伴う効果（繭の減産抑止、品質向上等）が導入費用及びランニングコストに見合うものであること。
- (3) この事業を実施しようとする者は、事業実施計画案を大日本蚕糸会に提出し、事前協議しなければならない。

【参考】

5月に群馬県、全国製糸連絡協議会と連携して、暑熱に対応する箇所を強調した壮蚕飼育標準表を作成して、全国の養蚕農家、関係機関等に配布しました。

飼育量 蚕種1箱 30,000粒の場合

仕 蚕 飼 育 標 準 表

右側に養分対量としてアンダーラインの点に御覧ください

春 蚕

4 ～ 5 令 桑 葉 育 〔1日3箱(繭7 繭1 繭7)〕					
令	日数	1日分の 給 桑 量	桑 葉 量	桑 葉 量	飼育方法・環境条件
4 令	1	25 ^{kg} (13.5×4.5)	繭入れ・桑付け		・本日は4令桑葉だけで給糸場合を示した。 ・繭子4令桑葉に給糸し、1日5桑葉に給糸量を見た。
	2	40 ^{kg} (13.5×7.5)	繭 歩・桑 葉		
	3	52 ^{kg}			
	4	65 ^{kg}			
	5	43 ^{kg}			
	6	14.8 ^{kg} (13.5×3.5)	繭 歩・桑 葉	繭 歩・桑 葉	・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。 ・夜間給糸は繭歩をそろえ、繭口をばらばらに給糸する。 ・繭歩調整は繭歩をそろえ、繭口をばらばらに給糸する。
給桑量 桑葉 225kg					
5 令	1	20 ^{kg} (13.5×3.5)	繭 歩・桑 葉		・よく眠り終ってから桑付けする。 ・夜間給糸は繭歩をそろえ、繭口をばらばらに給糸する。
	2	70 ^{kg} (13.5×7.5)	繭 歩・桑 葉		・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。
	3	95 ^{kg}	繭 歩・桑 葉		・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。
	4	145 ^{kg} (13.5×10.5)	繭 歩・桑 葉		・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。
	5	170 ^{kg}			
	6	200 ^{kg}			
	7	200 ^{kg}			
	8	200 ^{kg}			
	9	170 ^{kg}			
	10	70 ^{kg}	上 桑		・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。
給桑量 桑葉 182kg					

夏蚕・初秋蚕

4 ～ 5 令 桑 葉 育 〔1日3箱(繭6 繭6 繭2-8繭)〕					
令	日数	1日分の 給 桑 量	桑 葉 量	桑 葉 量	飼育方法・環境条件
4 令	1	26 ^{kg} (13.5×4.5)	繭入れ・桑付け		・本日は4令桑葉だけで給糸場合を示した。 ・繭子4令桑葉に給糸し、1日5桑葉に給糸量を見た。
	2	46 ^{kg} (13.5×7.5)	繭 歩・桑 葉		
	3	58 ^{kg}			
	4	52 ^{kg}			
	5	16.2 ^{kg} (13.5×3.5)	繭 歩・桑 葉	繭 歩・桑 葉	・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。 ・夜間給糸は繭歩をそろえ、繭口をばらばらに給糸する。
給桑量 桑葉 225kg					
5 令	1	50 ^{kg} (13.5×7.5)	繭 歩・桑 葉		・よく眠り終ってから桑付けする。 ・夜間給糸は繭歩をそろえ、繭口をばらばらに給糸する。
	2	90 ^{kg}	繭 歩・桑 葉		・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。
	3	140 ^{kg} (13.5×10.5)	繭 歩・桑 葉		・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。
	4	190 ^{kg}			
	5	200 ^{kg}			
	6	180 ^{kg}			
	7	130 ^{kg}			
	8	上 桑			・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。
給桑量 桑葉 980kg					

晩 秋 蚕

4 ～ 5 令 桑 葉 育 〔1日3箱(繭7 繭1 繭7)〕					
令	日数	1日分の 給 桑 量	桑 葉 量	桑 葉 量	飼育方法・環境条件
4 令	1	26 ^{kg} (13.5×4.5)	繭入れ・桑付け		・本日は4令桑葉だけで給糸場合を示した。 ・繭子4令桑葉に給糸し、1日5桑葉に給糸量を見た。
	2	45 ^{kg} (13.5×7.5)	繭 歩・桑 葉		
	3	56 ^{kg}			
	4	55 ^{kg}			
	5	16.2 ^{kg} (13.5×3.5)	繭 歩・桑 葉	繭 歩・桑 葉	・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。 ・夜間給糸は繭歩をそろえ、繭口をばらばらに給糸する。
給桑量 桑葉 182kg					
5 令	1	30 ^{kg} (13.5×7.5)	繭 歩・桑 葉		・よく眠り終ってから桑付けする。 ・夜間給糸は繭歩をそろえ、繭口をばらばらに給糸する。
	2	60 ^{kg}	繭 歩・桑 葉		・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。
	3	70 ^{kg}	繭 歩・桑 葉		・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。
	4	100 ^{kg} (13.5×10.5)	繭 歩・桑 葉		・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。
	5	120 ^{kg}			
	6	140 ^{kg}			
	7	150 ^{kg}			
	8	140 ^{kg}			
	9	110 ^{kg}			
	10	40 ^{kg}	上 桑		・繭歩をそろえるため、繭口をつき分け、繭歩調整を行う。
給桑量 桑葉 960kg					

上桑後の日数	日数	桑 葉 量	桑 葉 量
1 日 目		戸隠子を繭入れ、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。	
2 日 目	繭歩 20 ～ 28℃ 繭歩 40 ～ 70℃ (夜 4.5 ～ 3.0℃)	繭歩等を繭歩を繭歩し、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	
3 日 目		繭歩等を繭歩を繭歩し、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	
4 日 目		繭歩等を繭歩を繭歩し、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	
5 日 目以降	20～24℃	繭歩等を繭歩を繭歩し、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	

上桑後の日数	日数	桑 葉 量	桑 葉 量
1 日 目		繭歩等を繭歩を繭歩し、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	
2 日 目	繭歩 20 ～ 28℃ 繭歩 40 ～ 70℃ (夜 4.5 ～ 3.0℃)	繭歩等を繭歩を繭歩し、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	
3 日 目		繭歩等を繭歩を繭歩し、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	
4 日 目以降	20～24℃	繭歩等を繭歩を繭歩し、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	

上桑後の日数	日数	桑 葉 量	桑 葉 量
1 日 目		戸隠子を繭入れ、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	
2 日 目	繭歩 20 ～ 28℃ 繭歩 40 ～ 70℃ (夜 4.5 ～ 3.0℃)	繭歩等を繭歩を繭歩し、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	
3 日 目		繭歩等を繭歩を繭歩し、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	
4 日 目		繭歩等を繭歩を繭歩し、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	
5 日 目以降	20～24℃	繭歩等を繭歩を繭歩し、繭歩等を繭歩を繭歩する。繭歩等を繭歩する。	

○2～3令の2令の繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する。
●桑葉の繭歩を繭歩する。繭歩を繭歩する

「蚕糸の日2026フォーラム」を開催

一般財団法人大日本蚕糸会
企画調整部

大日本蚕糸会は、蚕糸業が近代日本の発展に貢献してきた歴史や蚕糸業の文化的な重要性について、多くの方々に理解を深めていただく機会として、3月14日を「蚕糸の日」と制定しました。

これを記念して、3月13日（金）に「蚕糸の日2026フォーラム」を開催しました。今回のフォーラムは、記念講演「神宮式年遷宮と御料生糸」及びパネルディスカッションを通じて、国内蚕糸業の歴史的・文化的価値にご理解を深めていただき、多くの方々から応援していただけることを願って開催しました。フォーラムには、ホールの固定席246席を超える279名の御参加をいただきました。

記念講演では、伊勢神宮神宝装束部の宮本史典氏に「神宮式年遷宮と御料生糸」というタイトルで、式年遷宮では約1.5tの

国産生糸を使用することや、その特長等についてご講演いただきました。

また、パネルディスカッションでは、「日本の蚕糸業が消滅してもいいの？」をテーマに、コーディネーターに国見裕久氏、パネリストとして芦澤洋平氏、今泉宜子氏、合瀬宏毅氏、工藤操氏、高林千幸氏を迎えて、蚕糸業の現状が多くの方に知られていないこと、まずは知っていただくことが大事であり、その際表示が重要であること等について議論いただきました。

【参考】

「蚕糸の日」日付の由来は宮中御養蚕が始まった日（旧暦）。昭憲皇太后（明治天皇の皇后）が宮中御養蚕を開始した明治4年の第1回の掃立日（はきたてび）（旧暦）に由来。



宮本 史典 氏のご講演



パネルディスカッション

記念講演の抄録（PDF）

https://silk.or.jp/wp-content/uploads/jingu_Abstract_3.13.pdf

パネルディスカッションの動画（YouTube）

<https://www.youtube.com/watch?v=oj7rUkOnJIE&t=572s>

「カイクを育てよう！ 2026」

— 全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン —

人々にとって身近な存在であったカイコは、蚕糸業の衰退とともに目に触れる機会が少なくなっています。

こうした中で、各地の博物館で個別に行われている「カイコ、蚕種の配布」活動を横断的に連携し、かつて日本の産業を支えた蚕糸業を知ってもらうことを目的として、「カイコを育てよう！ 2026」を実施します。

全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン

そだ

カイコを育てよう!

2026



今年の夏休み、キミはカイコ博士になれる!

**全国7か所の蚕糸関係博物館で
カイコまたは蚕種を配布します。**

詳細は各施設にお問い合わせください。

キャンペーンに参加者するとプレゼントが当たるかも!

※各施設に最も近い公共交通機関が最寄駅の場合に適用いたします。

日本絹の里
NIPPON SILK CENTER



●開催 6月24日(日) 9:30~11:00 観望300セット
●申込 7月25日(土)~26日(日) 10:00~16:00
●TEL 073-7611 徳島県立博物館 企画課 888-1
●FAX 027-360-4300
●URL <https://www.nippon-silkcenter.jp>



シルク博物館



●開催 6月 5日(金)~19日(金)
●申込 7月17日(金)~19日(金)
●TEL 0231-6523 新潟県立博物館(上野山1) 企画課
シルクセンター2階
●FAX 040-641-0841
●URL <http://www.silkcenter-658.jp/museum>



国府市博物館
コフウシホクブツカン



●開催 国庫にてお問い合わせください
●申込 7月18日(土)~8月2日(日)
●TEL 0264-0021 長野県国府市国府市1-4-6
●FAX 0264-23-3489
●URL <http://www.kofu-shi.jp>



関ヶ原シルクミュージアム



●開催 7月11日(土)~21日(日)
●申込 7月26日(日)~27日(月) 9:00~17:00
4800枚 10枚 観望 90セット
●TEL 0594-4321 愛知県関ヶ原市関ヶ原 462
●FAX 0565-43-4361
●URL <http://kariyasilk.jp>



Seiyu city Nomura silk Museum
西予市野村シルク博物館



●開催 ① 7月10日(土)~12日(日)
観望 50セット
② 8月 7日(土)~9日(日)
観望 30セット
●TEL 0769-1212 静岡県西予市野村町野村1-17-1
●FAX 0894-72-3710
●URL <http://www.city.seiyu.akita.jp/kyoku/silk-museum/index.html>



JAPAN SILK CENTER



●開催 6月24日(日)~30日(日)
2200枚(1000枚×2) 1100枚(550枚×2) 観望 800セット
●申込 7月19日(土)~21日(月) 9:00~17:00
●TEL 7月30日(日) 30、13:30、15:30 88016
8月 7月31日(月) 30、13:30、15:30 88016
8月6日(火)~7日(水) 20:00~07:00
●TEL 0120-0000 日本絹センター(大阪) 1-84 糸島支所
●FAX 03-3214-3500 (一都県三府糸島支所)
●URL <http://jsk.jp>



主催：「カイコを育てよう! 2026」実行委員会

 **大日本蚕糸会**
The National Silk Association

明治神宮外苑創建百年記念「聖徳記念絵画館の巨大壁画にせまる」 特別展・催事のお知らせ

明治神宮ミュージアム

企画概要

令和8年(2026)10月、明治神宮外苑は大正15年(1926)の創建から100年の節目を迎えます。

外苑の中心施設である聖徳記念絵画館には、明治天皇・昭憲皇太后の御事績を描いた八十点の巨大壁画が展示されています。

なかでも、《富岡製糸場行啓》(荒井寛方画、大日本蚕糸会奉納)は、明治6年(1873)に明治神宮の御祭神・昭憲皇太后が群馬県の富岡製糸場をご視察された場面を描いています。

明治4年(1871)、昭憲皇太后は吹上御苑内に御養蚕所を設けて長らく途絶えていた皇室の養蚕業を復興され、以来、皇后の公務として今日まで受け継がれています。

本展覧会の前期展では、《富岡製糸場行啓》のほか、このたび大日本蚕糸会より明治神宮へ提供した繭玉(小石丸・黄繭・白繭・天蚕)や生糸を展示します。また、前期展の序盤には大日本蚕糸会と共催でワークショップを開催します。

詳細は明治神宮ミュージアムHPをご覧くださいのうえ、ぜひ足をお運びください!



荒井寛方作《富岡製糸場行啓》
聖徳記念絵画館所蔵

スケジュール

前期展 9月26日(土)～10月11日(日)

「歴史画のパトローネージュ～明治の画家を支えた人々～」

【実演】9月26日(土)・9月27日(日) 13:00～15:00 於：明治神宮ミュージアムロビー
「繭からの糸繰り実演」林久美子氏(シルクキュレーター)

【ワークショップ】9月27日(日) 11:00～15:30 於：明治神宮参集殿
「繭クラフトから糸繰りまで五感で楽しむ養蚕文化」大日本蚕糸会・富岡製糸場世界遺産伝道師協会

【レクチャー】10月8日(木) 13:00～15:30 於：明治神宮ミュージアムロビー
「《富岡製糸場行啓》を描いた荒井寛方を語る」大木礼子氏(さくら市ミュージアム―荒井寛方記念館―館長)

明治神宮ミュージアム 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町1-1

電話：03-3379-5875 HP：<https://www.meijijingu.or.jp> 公式X：@Meiji_Jingu_M

生糸の産地判別について

独立行政法人農林水産消費安全技術センター

高嶋康晴 坂井田健一 森田美文

独立行政法人農林水産消費安全技術センター（略称：FAMIC（ファミック））は、令和7年度に一般財団法人大日本蚕糸会様からの委託を受けて、生糸の産地判別に関する調査を行いました。本稿ではその報告をいたします。

はじめに、FAMICの紹介をしたいと思います。FAMICは農林水産省の複数の検査機関が統合されてできた組織で、現在では、肥料、飼料、農薬といった生産から食品など消費に関するものまで、農林水産業に関する様々な物の検査などを行っています。

ちなみにFAMICの源流の一つが、輸出生糸の品質向上のために1896年に横浜に置かれた生糸検査所です。現在では横浜第二合同庁舎（図1）となり、FAMICの横浜事務所も置かれています。1990年には横浜市認定歴史的建造物に指定されました。

現在のFAMICの主な業務の1つに、食品の表示の検査があります。市販されている食品には、名称や原材料など様々な表示

がされていますが、この表示が本当に正しいかを判別する検査を行っています。最近、特に消費者の関心の高い事項として、食品に使われている原材料の産地がどこかということがあります。現在、一般に販売されるすべての食品で、「原産地」（生鮮食品）あるいは「主な原料の原産地」（加工食品）に関する表示が義務づけられており、地域的なブランド価値から積極的にその産地をアピールしている例も見られます。ただ、産地については、その食品を見ても違いがわかるわけではありません。そのため、原材料の産地が国産と表示されているにもかかわらず、実際には外国産の安価な原材料を使うなど、食品の産地偽装が実際に発生しています。このことから、食品に表示されている産地が正しいかどうか、科学的に判別する方法が求められてきました。

FAMICでは20年以上前から、食品の産地を科学的に検査する方法について研究を行ってきました。生物が持つDNAの違い、あるいは食品に含まれる化合物・元素の濃度の産地による違いなどの特徴を捉えて産地を判別する方法を開発し、実際に検査に活用しています。

産地判別に活用されている技術の一つ、元素分析では、食品中に含まれる微量な元素の量を測定します。農産物を例にとると、植物が成長する際には、土から水や養分を吸い上げ、それが体内に蓄積されていきますが、生育した土壌によってミネラルなど



図1 横浜第二合同庁舎

の成分の濃度がわずかに異なってくるといわれています。それぞれの産地のデータをたくさん集めることによって、産地ごとの傾向に違いが認められるため、統計解析により産地の判別を行います。この技術を応用して、たまねぎやうなぎ加工品などの産地判別法を確立し、検査に用いています。

今回の調査では、生糸の産地判別をテーマとしています。生糸はFAMICの検査対象である食品ではありませんが、国産の生糸を保護するため「純国産絹マーク」がつけられるなど、国産品について外国産品と差別化が図られています。生糸は繭から作られ、繭は蚕が作り出します。その繭は蚕が食べる桑の葉などの餌の影響を受けますので、遡ると桑が育った土地の特徴を反映すると考えられます。そのため、生糸の産地によって、含まれる元素の濃度に異なる傾向があるのではと思われたため、食品で得

た知見を活かし、国産及び外国産の生糸を分析して違いがあるかどうか確認しました。

分析は、生糸の一部を採取してそれに硝酸などの酸を加えて加熱し、有機物を分解して溶液の状態にし、その溶液中に含まれる様々な元素の濃度を測定することで行いました。

測定は誘導結合プラズマ質量分析装置(ICP-MS)(図2)と誘導結合プラズマ発光分光分析装置(ICP-OES)(図3)の2種類の装置を用いました。これらの装置は一度にたくさんの種類のごくわずかな元素の濃度を測ることができます。ナトリウムやマグネシウムなど生物中に比較的多く含まれる元素は主にICP-OESで、ごくわずかしかな含まれないような金属元素は主にICP-MSで測定し、機器の特性に応じた使い分けを行っています。

分析の結果、産地によって濃度の違いが見られる元素が複数あることがわかりました。その一例を図4に示します。今回、全部で18種類の元素を測定し、それらの結果を組み合わせることで産地による傾向が認められたため、元素分析により生糸の国産と外国産の判別の可能性があると判断できました。実際に市場に流通している商品に対して判別を正しく行うためには、より多くのサンプルのデータを集めることが必要です。FAMICでは、今後も生糸の産地判別法についての検討を行っていく予定です。



図2 ICP-MS



図3 ICP-OES

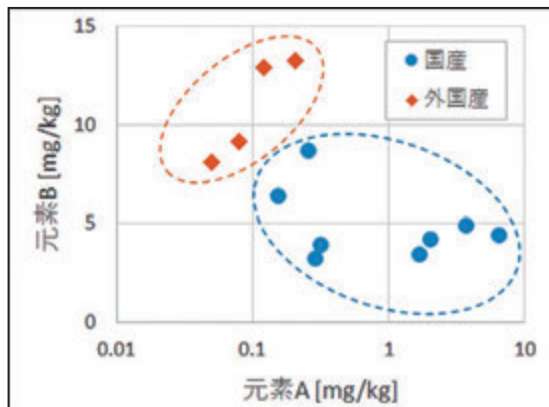


図4 生糸中の元素濃度の一例

養蚕研修を経て得た新たな視点

株式会社 HOSOO
株式会社 KYOTO SILK HUB
菅野純平

【私と養蚕業との関係】

私は、1688 年京都の西陣織の機屋として創業した HOSOO のグループである、(株) HOSOO 古代染色研究所にて、植物染色の染色業に従事しております。また、養蚕業としては、昨年設立された同グループ企業である(株) KYOTO SILK HUB ※ 1 にも所属し、少しずつではありますが、養蚕業にも従事し始めました。

これまで、私と養蚕やシルクとの関わりといえば、決して深いものはなく、

養蚕では、弊社の研修の一環で、養蚕農家さんへ 5 齢～上簇までの数日間お手伝いをさせていただくことがあった他、古い記憶となりますが、小学校低学年時に、授業の一環で蚕を飼育したことがありました。

虫嫌いであった私ですが、蚕のマイペースな性格と桑をムシャムシャと食べる音や素振りなど、不思議と愛着が沸いた記憶があります。

シルクとの関わりでは、

ここ数年ではありますが、染色を志してからも、シルクは高貴で美しいものというイメージそのままに、他の繊維に触れる機会の方が多く、あまりシルクに触れる機会はありませんでした。弊社に入社してからは、着物の背景があることからか、絹糸や布地の染色の機会をいただくことも多く、

光や水、空気をはらむようなシルクならではの特異な質感に、漠然と他の繊維にはない不思議な魅力を感じておりました。

小学生の頃の蚕の飼育体験～今の私の境遇を考えると、養蚕とは深い関わりはなかったものの、

何か不思議なご縁があるのかもと、考える次第です。

【研修の始まりと小さな命との対峙】

これまでの養蚕の経験は、前述した通り、数日間のお手伝い程度でしたので、実際の作業内容や管理方法について深く理解する機会はほとんどありませんでした。

そんな中、始まった養蚕研修は、徹底した衛生管理と厳密な環境セッティングから始まりました。

稚蚕人工飼料室の準備においては、入室時の手指および履き物の消毒はもとより、人工飼料の包材をアルコールで拭き上げてから開封するという徹底ぶりに驚かされ、また飼育開始二日前からの温湿度の微調整、蚕座の準備など、人間側が徹底して「環境」を整える作業において、これから始まる蚕の飼育の重みを実感したところから始まりました。

この度の研修では、「錦秋鐘和」3 万 9 千頭と「セヴェンヌ」9 千頭 の 2 品種の

蚕を飼育させていただきました。

いざ飼育が始まると、蟻蚕と呼ばれる生まれたての黒く小さな命を前に、いきなり数万もの命を預かってしまったのだという、なんとも言い表せない緊張感が込み上げてきました。それと同時に、これから日々行うことになる観察と管理の密度の高さには、ただただ驚かされるばかりでした。例えば、蚕箔を置くわずかな高さの違いが温度や湿度に影響を与え、それがそのまま蚕の成長の差に繋がってしまいます。そのため、毎日一段ずつ「座の入れ替え」を行わなければなりません。また、この時期の蚕は蟻のように小さいため、虫眼鏡を使ってでもわずかな変化を見逃さないよう徹底することが求められます。そこまでして初めて、数万の命の歩みを揃えることができるのだと、身をもって実感させられました。

【複雑なものづくりとしての養蚕】

初めてのことばかりの上に2品種の同時飼育という、まさに頭がパンクしそうな日々でしたが、その分多くの気づきがありました。

研修が終盤に向かうにつれ、養蚕という営みは単なる虫の飼育ではなく、

土壌、植物、蚕、人間、環境、いろいろな要素が絡み合う複雑なものづくりなのだと感じるようになりました。

健全な土壌が良質な桑葉を育て、その桑葉が蚕の身体を構成し、最終的に人間が手にする極上のシルクへと結晶化する。このどこか一つが欠けても、美しい繭（糸）は生まれません。

（特に研修の中では、桑はきちんと管理



5 齢 セヴェンヌ

されたものを使用させていただいていたので、刈り取るだけでよかったものの、実際には桑園や桑のお手入れもしなくては行けないのだと、ふと気づいた時には、養蚕の現場で働かれている方々に本当に頭が下がる思いでした。）

特に4齢以降の屋外蚕室への移動後は、このさまざまな要素が色濃く絡み合い、

例えば、扇風機や温風機を駆使して温度や風の流れをデザインし環境を整えること、

品種ごとに成長スピードの違いがあり、セヴェンヌが錦秋鐘和よりもわずかに成長が早かったため、給桑の量やタイミングを動的に変化させなければならないこと、(5齢期には摂餌量が格段に増え、生涯で食べる桑の量の約8割ほどをこの期に食べること) 蚕の成長を揃えるために、頭部にできる微小な「▲マーク」を一つ目の目印に眠を判断し、停食のタイミングを伺うことなど。



左：錦秋鐘和 右：セヴェンヌ

このように自然の摂理と人間の培ってきた技術、そして蚕の生理特性などが絡み合う複雑なエコシステム

（ものづくり体制）が養蚕の中には構築されていました。

【研修を通して、これから】

冒頭でもご紹介いたしました通り、私が所属する株式会社 KYOTO SILK HUB は、様々検討段階ではありますが、

AI の導入などによる「スマート養蚕」の実現を目指しております。

しかし、今回の研修を通じて改めて実感したのは、これまで先人たちが培ってきた「養蚕における身体的実践」や「養蚕に関わる人々の精神性」を、このスマート養蚕の中にいかに反映させていくかという視点の大切さです。

単に効率性と経済合理性だけを追求するのであれば、これほど微細な観察と膨大な労働力を必要とする養蚕業を続けることは困難だったかもしれません。無数の小さな命がひたすらに桑を食み、やがて自らの命のすべてを賭して一本の美しい糸を紡ぎ、

自身を包み込んでいく。その健気で神秘的な生涯に直面するとき、私たちは蚕を単なる畜産業の対象としてではなく、至高の価値を持つ「貴きもの」として愛さざるを得なくなります。かつて先人たちが蚕を「お蚕様（おかいこさま）」と呼び、神仏と同等に崇めた精神性は、この手間の多さと、それによって引き出される至高の美に対する、人間側の必然的な応答だったのではないのでしょうか。この「身体的実践」と「精神性」をスマート養蚕の中にどのように組み込んでいくか、まだ多くの課題がありますが、弊社の取り組みが養蚕業の復興に少しでも貢献できるよう、これからも邁進してまいります。

最後になりますが、本研修の実施にあたりご指導をいただきました一般財団法人大日本蚕糸会および蚕糸科学技術研究所の皆様、見学を受け入れてくださった国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構様、新菱冷熱工業株式会社様、栃木県小山市の JA おやまの皆様、そして共に研修に励んだ（株）アーダン 奄美養蚕 のお二方に、心より深く感謝申し上げます。

※ 1 「養蚕×テクノロジー×文化×地域創生」を統合させ、

「自動化と再エネによる『未来型養蚕』」を起点に、シルク文化と地域の未来をともに創造する養蚕業を目指しております。

日本のクワはどこから来たのか

—ゲノム解析から解き明かす起源と変遷—

信州大学基盤研究支援センター

遺伝子実験支援部門

教授 松村英生

はじめに

クワはカイコの飼料として不可欠な植物であり、特に江戸時代から明治・大正期にかけて養蚕業の隆盛に伴って全国に栽培が拡大した。そのため国内には数百を超える品種や系統が遺伝資源として維持されている。現在ではその栽培面積は大幅に縮小しているものの、街中や田畑の近くなどにクワの木を見かけることも少なくない。このような背景から、クワの起源や伝来の歴史を明らかにすることは、日本の自然史だけでなく、人間の営みを理解するうえでも重要である。

日本におけるクワの分類とゲノム解析

クワは養蚕技術とともに中国大陆から伝わったと言われることもあるが、日本で栽培されるクワは主に、日本在来種とされるヤマグワ、中国由来とされるカラヤマグワやログワに分類されている。しかしながら、クワ属植物は種の間で交雑が非常に起こりやすく、形態的特徴だけではこれらの種を厳密に区別することが難しい。また、縄文時代の遺跡からクワ属の種子が発見されていることから、養蚕が伝来する以前からすでにクワが自生していたことは確実である

が、それらが現代の栽培種とどのようにつながっているのかは不明である。

近年、ゲノム解析（全 DNA 配列情報の解読）技術が飛躍的に進歩し、主に中国においてゲノム解析に基づくクワの系統分類や分化、伝播の推定に関する研究が進められている。そこで筆者らは日本で維持または生育する約 200 点のクワ試料を対象に、全ゲノム解析を行った。これらには、栽培品種だけでなく、樹齢数百年から千年以上に及ぶと推定される古木（表 1）、さらに伊豆諸島や南西諸島に分布するハチジョウグワやシマグワの個体群も含まれている。これら日本のクワのゲノム解析データと中国やインドにおける多数のクワのゲノム解析データを比較したところ、日本のクワは高い遺伝的多様性を有しており、単一の起源では説明できない複雑な遺伝的背景を持

表 1 ゲノム解析を行った国内のクワの古木（高齢樹）

名称	所在地	推定樹齢（年）
薄根の大クワ	群馬県沼田市	1500
老三樹	北海道洞爺湖町	1300
羽吉の大クワ	新潟県佐渡市	1300
下郷の大クワ	群馬県渋川市	400
左近邸のクワ	大阪府河内長野市	400
高月のクワ	東京都八王子市	400
恵比寿神社のクワ	北海道小樽市	300
七郷の大桑	宮城県仙台市	300

つことが明らかとなった。特に北日本や離島地域（伊豆諸島、南西諸島）の個体群は、国内外の大多数のクワ品種・系統とは明確に異なる独自のグループ（系統群）を形成しており（図1）、これらは日本列島に古くから存在していた在来のクワの系統、あるいはその子孫ではないかと考えている。

日本のクワがたどって来た道

最近の報告によると、アジア地域で栽培されるクワの起源は中国西南部の雲貴高原とされ（図1）、そこから東アジア一帯へ広がっていったと推定されている（Wang et al, 2026）。筆者らの研究結果と合わせると、日本列島にも比較的早い時期にクワは起源地から自然分布として到達し、その後に独自の分化をした集団が日本在来系統である可能性を示唆している。その後、弥生時代以降から国内の養蚕の発展に伴い、中国から多様なクワ品種が繰り返し導入され、それらが在来のクワと交雑することで、現在見られるような多様で複雑な遺伝構成が形成されたと考えられる。樹齢1000年以上の古木の一つも中国品種群と同じ系統群に含まれることから、こうした導入は弥生時代後期の養蚕技術の導入後からすでに行われていた可能性も推測される。

おわりに

以上のように、日本のクワは先史時代から続く遺伝的独自性の強い在来集団と、人間の活動によってもたらされた外来集団とが長い年月の中で混ざり合いながら形成さ

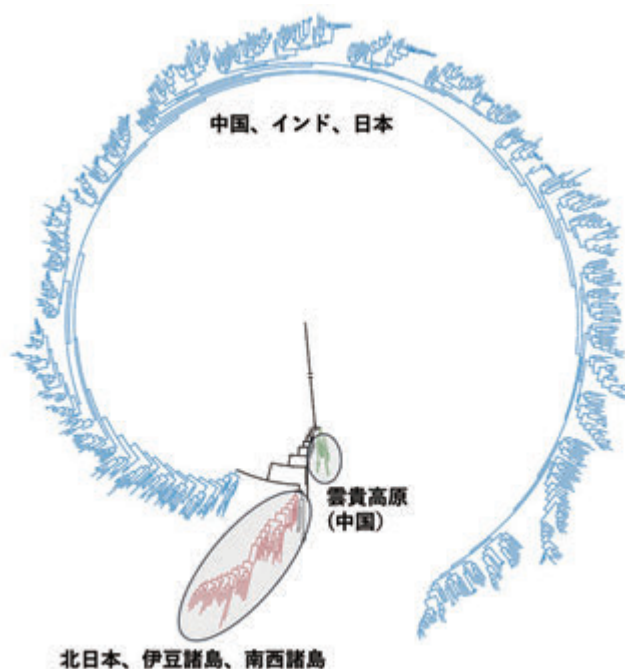


図1 国内外のクワの単一コピー遺伝子配列に基づく系統解析（832サンプルについて最尤推定法により系統樹を作成）

れてきたと考えられる。今後は、北日本や離島のクワの調査を継続することで、それらが在来系統である確証を示すと共に、それらの特徴や環境適応の仕組みを解明し、日本のクワが重要かつ貴重な遺伝資源であることを示していきたい。

【引用文献】

Jiao, et al., Mol. Plant. 13:1001-1012, 2020.
Dai et al., Adv. Sci, 10: 2300039, 2023.
Wang, et al., Plant Biotech. J. 24:2105-2122, 2026.

令和7年度桑園実態調査から見た国内桑園の現状 Vol.2

一般財団法人大日本蚕糸会

蚕糸専門員 小山朗夫

前号（シルクレポート No.89）では令和7年度に実施した桑園実態調査から見た国内桑園の現状についてお伝えした。今回は前回記載しきれなかった内容及びいくつかの訪問先で開催した講演会において話をさせていただいた桑における有機栽培の問題点について述べてみたい。

（1）桑苗の安定供給

昨年度の桑園実態調査で事前に行ったアンケートでは、桑園の改植を予定しているという農家はほとんどみられなかった。しかし、現場を訪問した際には、新規に養蚕に参入した農家、団体では規模拡大への意欲もあり、桑を新植しようというプランを持っているケースも少なくなかった。ここで問題になるのは、新改植の際に必要な桑苗の供給体制である。桑苗生産農家は、かつては栃木県、茨城県を中心に多数存在したが、現在は大規模に桑苗を生産しているのは群馬県富岡市の1軒のみとなっている。他にも各地に数軒は残っているものの、いずれも小規模で桑苗の安定供給に資するものではない。近年は桑苗の供給量は、需要より少なくなっている状態が続いている。

富岡市の桑苗農家では「一ノ瀬」及び「はやてさかり」が生産の中心であり、これら2品種で南西諸島を除く関東以西のほとんどの地域をカバーできる。しかし、関東甲信地方の高標高地及び東北地方太平洋側などの少雪寒冷地並びに福井県以北の日本海側の積雪地

に適応する桑品種の組織的な育苗は行われていない。地域によっては適応する桑品種の苗木が入手不可能という状況にある。

国内の桑品種は大半が挿木発根性に劣るため、販売用桑苗はほぼ100%接木法によって生産されている。接木法では台木とする一年生の実生苗（種子を撒いて育てる苗）が必要となる。生苗の生産には高度な技術と多大な管理の手間が必要なだけでなく、作柄は気象条件によっても大きく左右されるため、接木苗の安定供給及び生産拡大のネックとなっている。

一方、古くから積雪地で栽培されてきた在来桑品種「剣持」は、国内では例外的に挿木発根性良好であることが知られている。この品種は育種素材としても優秀であり、「剣持」またはその4倍体を交配親としてこれまでに5品種が育成され、種苗法に基づく登録がなされている。それらのいずれもが「剣持」の挿木発根性良好な特性を引き継いでいる。そのため、桑苗供給の空白地帯に向けて、挿木法による苗木生産も考慮してもよいのではないだろうか。良好な状態の穂木を使用すれば、苗圃ではなく本圃への直挿しによる桑園造成も可能であると思われる。萎縮病抵抗性、枝の耐倒伏性、初秋蚕期以降の葉の硬化などを考慮すると、5品種のうち積雪地向きの「ゆきあさひ」と寒冷地向きの「きぬゆたか」については、この春にも植付けの要望があり、今後も需要が見込まれるため、挿木用穂木



「きぬゆたか」の初秋蚕期生育状況：
福島県伊達郡川俣町



「きぬゆたか」を利用した直挿しによる桑園造成：
長野県駒ヶ根市

の供給のための母樹園を設置しておく必要がある。なお、これら2品種は既に育成権が消滅しており、何人も自由に苗木の生産・販売をすることができる。

いずれにしても、今後桑葉粉末の添加が不要な低コストで良質な人工飼料が開発されない限り、桑がなければ繭生産は不可能である。蚕糸業の基盤となる桑苗の安定的供給のために、問題の解決に向けて早急に対応すべきであろう。

(2) 桑の有機栽培の問題点

筆者は育蚕に関しては知識、経験ともに乏しいため、本稿では「有機繭」ではなく、「桑の有機栽培」について論じることとさせていただきます。有機栽培は環境に優しい、あるいは健康によいというイメージがあることから、そこから得られた収穫物は特に食品の素材としての需要が高まってきている。桑でもお茶用についてはほぼ100%が有機栽培である。しかし、養蚕用の桑に関しては現時点では有機JAS認証を得ている例は少ない。桑は多肥栽培が基本であり、従来の施肥基準では10アールあたり窒素30kg程度を施与することになっている。

また、有機肥料は化成肥料に比べて主要成分の含有率が低く、投入量を多くせざるを得ないため、作業量が増すだけでなく、含有する有機態の窒素成分が桑に吸収可能な無機態窒素に変化するには若干時間がかかるため、施肥量及び施与する時期の判断も難しい。さらに、除草剤あるいは殺虫剤の使用は認められていないため、管理作業に手間がかかるようになり、養蚕農家にとって負担が増すことになる。

群馬県蚕技センターの研究成果では、有機桑を用いた飼育試験で繭質に大きな差は認められなかったものの、有機肥料の種類や量によっては収量が減少する可能性が示唆される結果が得られている。すなわち、有機栽培によって桑園の生産性は低下することはあっても、向上することは期待できないと考えるのが妥当であろう。

国内の農耕地には既に余裕はなく、食料自給率の改善が叫ばれている現状では、有機栽培はむしろ逆の方向に向かってしまうことになりかねない。桑の有機栽培は生産効率に弱点があるため、今後国内で主流になる可能性は低いと思われる。

タイ王国からの研修生を迎えて

一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸科学技術研究所

竹村洋子
池嶋智美

はじめに

光沢感や肌触りの良さから世界的に知られる「タイシルク」。このタイシルクの振興と養蚕農家の支援を目的とした政府機関として、タイ王国では農業・協同組合省の下にシリキット王妃養蚕局（The Queen Sirikit Department of Sericulture, Ministry of Agriculture and Cooperatives、以下「QSDS」）が設置されています。QSDSは、タイシルクの品質向上、伝統的な養蚕技術の継承、ならびに農村地域の所得向上を目的として活動しています。具体的には、桑園整備や桑苗の配布、蚕室の整備支援、養蚕技術の指導などを通じて、高品質な繭の安定生産を技術面・経済面の両面から支援しています。

現在のタイ王国では、気候変動による極端な高温や乾燥の影響により、高品質な桑の確保が困難になっているほか、気温に適応できず途絶えてしまったカイコ系統も存在するそうです。そのため、QSDSから在日タイ大使館を通じて、カイコの遺伝資源保存や養蚕技術に関する人材育成を目的としたタイ・日本協力プロジェクトへの協力要請がありました。これを受けて、当研究所においてQSDS職員への研修が、2025年度10月から3月に行われました。

研修は、遺伝資源と蚕種製造を中心とした養蚕技術の習得を目的として実施されました。遺伝資源では、カイコの生殖質凍結保存技術、各種人工飼料の作製と摂食性試験などを行い、蚕種製造では、給餌量試験、採種、散種（ばらだね）の調製などを行いました。遺伝資源では、2025年10月27日から11月4日までの9日間の短期コースに2名と10月27日から11月17日までの22日間の長期コースに1名が参加し、蚕種製造には、2026年2月17日から3月10日までの22日間の長期コースに2名が参加しました。

本研修では、前半の遺伝資源研修を竹村が、後半の蚕種製造研修を池嶋が担当しましたので、それぞれについて報告いたします。

遺伝資源研修

最初の短期コースには、ポンピニー・ブーンブンダンさん（愛称：ノックさん）とラッタナワディ・ヨタラックさん（愛称：ローズさん）、長期コースにはヌットラ・チャンタラチャロエンさん（愛称：メイさん）が参加しました。タイでは、本名が長く複雑なことが多いため、親が付けたたり自ら選んだ愛称（チューレン）を、日常生活だけでなくビジネスの場でも用いる習慣が

あります。なお、ノックさんは2012年にも当所で研修を受けており、その後、QSDSに遺伝資源保存部門を立ち上げました。

短期コースでは、脱脂大豆粉末や無機塩類などの原材料を用いて人工飼料を一から作製し、桑粉末添加の有無による広食性カイコおよび非広食性カイコの人工飼料に対する摂食性の違いを比較するとともに、1～3齢期の桑入り人工飼料飼育を行いました。

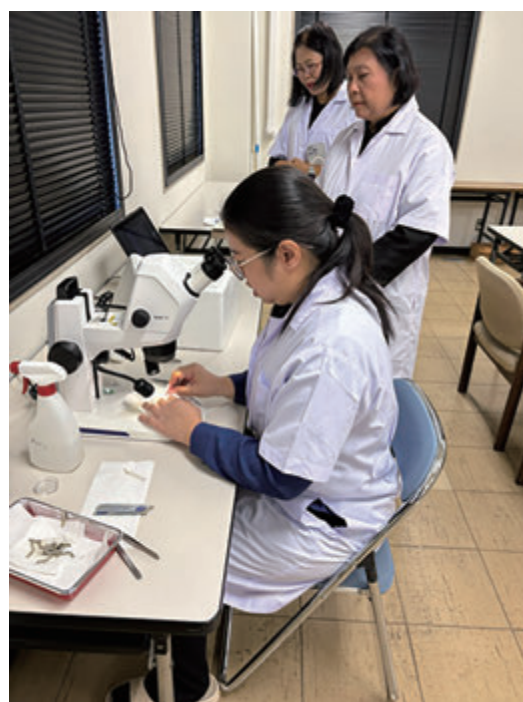


人工試料飼育での2齢停食の様子

また、カイコ遺伝資源の雌雄生殖質の凍結保存を目的として、4齢雌幼虫からの卵巣採取・凍結・移植、および雄蛾からの精液採取・凍結・人工授精に至る一連の工程について研修を実施しました。加えて、母蛾検査、繰糸、染色、桑園見学なども行うことができ、短期間ながら充実した内容の研修となりました。

11月5日以降は、メイさん一人での長期研修となりました。短期コースから引き

続き、3齢以降の人工飼料飼育から上簇、収繭調査までの一連の飼育管理を実践するとともに、その間に卵巣移植や精液採取に関する研修も実施しました。凍結保存技術の習得には苦勞する場面も見られましたが、今後のカイコ育種や養蚕の在り方について、積極的なディスカッションを重ねました。本研修で実施したカイコの生殖質凍結保存技術や人工飼料の作製・飼育技術などがタイ国内における遺伝資源保存体制の強化につながり、将来的に養蚕業の維持・発展に寄与する重要な技術となることを期待しています。



卵巣移植実習

(手前からメイさん、ノックさん、ローズさん)

蚕種製造研修

蚕種製造グループでは、ノッポン・コーンブンさん（愛称：ノックさん）とワライパーン・チューウォンパニットさん（愛称：ワンさん）の2名の研修生を受け入れ

ました。期間は研究所の早春蚕期で、晩秋蚕期に配布する普通蚕種を製造する大切な時期にあたります。桑の採れないこの時期は、掃き立てから上簇までの全期間を人工飼料で飼育します。そのため研修では、全齢(1 齢～5 齢)人工飼料育による飼育から、採種、散種の調製までを、私たちと一緒に
行う実務実習を中心としました。

また、小規模ではありますが給餌試験も行いました。5 齢期の給餌量は、蛹になる割合や産卵量の安定に大きく関わります。そこで適正給餌区と飽食区を設け、飼育・採種を行い、その違いを比較しました。



試験区への給餌 (研修 3 日目)

日々の作業の合間には、自然と会話が生まれました。目の前の作業についての質問から、互いの国の蚕糸業の話まで、話題はさまざまに広がっていきました。研修生からは、系統維持や蚕種製造だけでなく、防疫管理や桑園管理など幅広い質問があり、そのたびに担当者に確認しながら答える場面もありました。タイでは環境問題への取り組みも進んでいるようで、当研究所で昨年度に行った桑のバイオ炭にも関心を持ってくれました。

こうした研修を、研究所スタッフ、特



グループの皆と採種 (研修 21 日目)

に蚕種製造グループのメンバーの協力のもと、無事に終わることができました。

研修の最終日に行った成果報告会では、「今回の研修で得た技術を、これからの蚕種製造に活かしていきたい」と話してくれました。その言葉を聞き、担当者として大変うれしく感じました。

春先には、試験飼育で得られた受精卵数の結果とともに、約束していた研究所の桜の写真を送りました。「ありがとう。とても美しい!」「こちらはとても暑いよ。微粒子病検査で忙しくしているよ。」との返信が届きました。次は秋に、黄金色に色づいたイチョウの写真を、近況報告を兼ねて送りたいと思っています。

終わりに

本研修は、それぞれの分野における知識・技術の習得に加え、日々の飼育作業や意見交換を通じて、両国の養蚕事情や研究所の役割について理解を深める機会となりました。今回の研修を通じて得られた知識や経験を、今後の養蚕技術の向上や日々の業務の改善につなげていきたいと考えています。

イベント情報

●岡谷蚕糸博物館 企画展 「岡谷市制施行 90 周年記念展」

令和 8 年、岡谷市は市制施行 90 周年を迎えました。製糸業から多角的な工業都市として変化し、現在も「ものづくりのまち岡谷」として発展し続けています。本企画展では当時の写真や行政資料を通して、岡谷市の誕生から現在までの歩みを振り返ります。

〈会期〉 令和 8 年 7 月 2 日（木）～令和 8 年 10 月 12 日（月・祝）

休館日：水曜日・祝日の翌日（8/12、9/22、9/23 は開館）

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 ーシルクファクトおかやー

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒 394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

<https://silkfact.jp/>

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

●日本絹の里 特別展（夏休み展） 「学ぼうカイコ ～上毛かるたで学ぶカイコの世界～」

多くの群馬県民に親しみのある「上毛かるた」になぞらえ、群馬県に伝わる絹文化や養蚕の歴史についてご紹介します。期間中は展示館で沢山のカイコを飼育します。

〈会期〉 令和 8 年 7 月 18 日（土）～9 月 6 日（日）

休館日：火曜日、8 月 12 日（水） ※ 8 月 11 日（火・祝）は開館

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒 370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●日本絹の里 企画展

「日本の心・つなぐ～パッチワークキルト5作家展～」

国内外で活躍している、5人のキルト作家（岡野栄子・吉田サチ子・飯高悦子・坂くに子・多田紀子）が制作した、絹の着物などの「日本の布」を使った、個性あふれるパッチワークキルトの作品を展示します。

〈会期〉 令和8年9月17日（木）～11月14日（土）

休館日：火曜日、11月4日（水）

※9月22日（火・休）、11月3日（火・祝）は開館

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●駒ヶ根シルクミュージアム

【イベント・講習会】

7月19日（日） 「真綿教室～駒ヶ根産の繭ガラから真綿をつくろう！～」

7月23日（木） 「季節限定 藍の生葉染めストール」

8月9日（日） 「養蚕かるた大会」

8月11日（火） 「館長講話：駒ヶ根市で始まった令和の養蚕
―伝統と最新研究の連携による蚕からのワクチン生産について―」

8月15日（土） 「真綿教室～駒ヶ根産の繭ガラから真綿をつくろう！～」

8月16日（日） 「真綿教室～駒ヶ根産の繭ガラから真綿をつくろう！～」

8月25日（火） 「柿渋染め 木綿や絹ストール」

9月15日（火） 「季節限定 柿渋づくり」

9月20日（日） 「真綿教室～駒ヶ根産の繭ガラから真綿をつくろう！～」

10月8日（木） 「摺り染めの半襟」

「タペストリーを作ろう！（自然素材を入れて）」

10月18日（日） 「真綿教室～駒ヶ根産の繭ガラから真綿をつくろう！～」

10月25日（日） 「まゆクラフト講習会～エーデルワイスづくり～」

どのイベント・講習会も要予約でございます。

詳細についてはお電話にてお問い合わせください。

〈主催・会場〉 駒ヶ根シルクミュージアム

〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那 482 Tel: 0265-82-8381

<https://www.komagane-silk.com>

●シルク博物館

【実演・ワークショップ】 ※ワークショップの申し込みは事前予約制です。

7月4日(土)	【子ども向けワークショップ】 まゆ人形作り
7月11日(土)	【ワークショップ】 くみひもストラップ作り
7月25日(土)	【子ども向けワークショップ】 かいことシルクの勉強会
8月15日(土)	【子ども向けワークショップ】 まゆ人形作り
8月22日(土)	【子ども向けワークショップ】 小さなシルクハンカチ染め体験
8月23日(日)	【子ども向けワークショップ】 小さなシルクハンカチ染め体験
8月29日(土)	【子ども向けワークショップ】 かいことシルクの勉強会
9月5日(土)	【ワークショップ】 くみひもストラップ作り
9月12日(土)	【子ども向けワークショップ】 まわた人形「あひるの親子」作り
9月19日(土)	【実演】 手作り真綿
9月26日(土)	【実演】 手紬糸作り

【夏休み企画】

『お蚕さまの縁日』

〈会期〉 令和8年8月1日(土)～8月9日(日)

〈内容〉 ミニワークショップでかいこや繭・生糸に楽しく親しみながら、シルクのふれあい体験ができます。

詳細はホームページをご覧ください、お電話にてお問合せください。

〈主催〉 シルク博物館

〈会場〉 シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地シルクセンタービル2階

Tel: 045-641-0841

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>

★イベント開催報告

群馬県立日本絹の里 企画展

「ちりめん創作人形展 ～猫に遊ぶ・・・広がる夢・布と糸～」

会期： 令和8年2月7日（土）～4月5日（日）

開催報告：

本展では、ちりめん等の絹を素材に使って昔の日常などをモチーフにした人形を制作している高崎市在住の人形作家・竹本京さんと工房の生徒が制作した作品を展示しました。今回は蚕の守り神とも言われている「猫」をテーマに作品を制作していただき、絹の持つ温かな魅力をご紹介します。

会期中には、ギャラリートークをはじめ、人形制作実演会やちりめん細工講習会を開催し、多くの方々にお楽しみいただくことができました。

群馬県立日本絹の里 企画展

「草乃しずか 日本刺繍展 ～源氏物語を花で装う～」

会期： 令和8年4月11日（土）～5月31日（日）

開催報告：

情感あふれる豊かな色彩表現で多くの作品を発表し、人々を魅了している日本刺繍作家・草乃しずかさんの作品を紹介しました。「花で装う」をテーマに、源氏物語の姫君たちの心を着物に刺繍で表現した作品や、女性の一生を桜の刺繍で彩った作品など、約170点をご覧いただきました。

会期中はギャラリートークや日本刺繍ワークショップ、源氏物語に関する講演会などを行い、多くの方に絹糸の魅力に親しんでいただくことができました。

岡谷蚕糸博物館 企画展

「諏訪のものづくり Part III 製糸業と味噌醸造業」

会期： 令和8年2月19日（木）～5月24日（日）

開催報告：

製糸工場の中で工女さんへの賄い用味噌作りが行われていた様子や、製糸業から味噌醸造業へと転換していった歴史をご紹介します。関連イベントとして味噌玉作り体験、松亀味噌工場見学、小藤菜緒氏講演会を行い、多くの方にご参加いただきました。

シルク博物館 春の企画展

「昭和の染めと織リーシルク博物館所蔵のキモノを中心に」

会期： 令和8年4月25日（土）～令和8年6月7日（日）

開催報告：

本展では所蔵資料による昭和時代のキモノ、帯、舞踊衣装、室内工芸品、雑誌など75点を展示公開しました。ご来館者の中にはキモノでいらした方も見受けられ、昭和時代の染めと織りをじっくりとご堪能いただく機会となりました。また、「レトロなキモノの試着体験」では、実用の美しさを体感していただきました。参加者は、久しぶりにキモノを着たい・大島紬を着てみたい・普段選ぶことのない色目のキモノに挑戦したいなど、この体験を目的に来館されたことが印象的でした。さらに、キモノを着用したままで館内見学をしていただいたことも好評をいただきました。

令和8年度貞明皇后研究助成採択一覧(9件)

貞明皇后研究助成とは？

本会は、蚕糸絹に関する科学技術の研究及び発明並びにその応用を助長し、蚕糸絹文化の継承と蚕糸絹業の改良発達に寄与することを目的として、本会の総裁であられた貞明皇后の御名を冠した研究助成を毎年度行っています。

今年度は、下記の9課題について採択をしました。(助成総額 12,479,000 円)

研究題目 及び 研究概要(申請時)	研究代表者	助成金額
① 原蚕種の全齢人工飼料育による群馬オリジナル蚕品種の蚕種製造体系の確立	群馬県蚕糸技術センター 独立研究員 下田 みさと	1,500 千円
初秋蚕期に飼育されている暑さに強い蚕品種「なつこ」について、蚕種製造量の拡大および初秋蚕期以外への供給を判断するため、異なる組成の人工飼料を適切に組み合わせた原蚕の全齢人工飼料育体系を検討し、飼育成績の安定と費用削減を図り、より効率的な蚕種製造体系の確立を目指す。さらに製造した蚕種について長期にわたり基礎的な調査および実用的な規模での調査を行い、蚕種品質の持続性を確認した上で、原蚕種の増殖から蚕種製造を体系化し、農家の要望に応えた蚕種供給期間の拡大に寄与する。		
② 膿病ウイルス抵抗性評価及び流行株同定・疫学調査	北海道大学 准教授 佐藤 昌直	2,000 千円
カイコ膿病の原因、カイコ核多角体病ウイルスは株による遺伝学的・性状の違いを持つ。本申請研究では(1)異なる原因株を想定したシナリオに基づいて、複数ウイルス株と複数カイコ系統を用いた抵抗性評価と交配実験を進め、抵抗性遺伝資源の選抜に着手すると共に、(2)養蚕農家での膿病調査・ウイルス探索を行い、現在、問題であるウイルスの遺伝学的同定と疫学調査を行う。これらから喫緊の、そして継続的な膿病抵抗性カイコ系統育成に資する遺伝学的資源、情報の整備を目指す。		
③ 茶樹様仕立てクワによるカイコ飼育	農業・食品産業技術総合研究機構 グループ長補佐 飯塚 哲也	1,000 千円
茶樹様仕立てによる桑を活用し、既存の茶摘み機を転用した新たな収穫体系を構築することが可能であるか検証する。従来の仕立てとの比較試験により、年間収量、再生力、作業負担の違い等を評価する。さらに、茶樹様仕立てした桑より機械収穫した桑葉による壮蚕期の飼育試験を実施し、繭質等の飼育成績に及ぼす影響を明らかにする。老朽化した桑収穫機の代替技術として、省力化と機械化を両立した持続的な養蚕生産体系の構築を目指す。		

④ カイコ限性系統の細胞遺伝学的解析	岩手大学 教授 佐原 健	1,500 千円
カイコ雌雄分離飼育は、より均質で高級な生糸生産や機能別繭生産を可能とする。わが国では雄のみもしくは雌のみが孵化する「プラチナボーイ」と「おりひめ」が実用化された。平衡致死を利用したこれらの作出と系統維持にはW染色体転座（限性）系統が不可欠であり、分散動原体の転座に関わる科学研究としても興味深い。しかし、その染色体解析はほとんど行われていない。本研究では、形質により雌雄を判別できる限性系統も加えて、これらW転座染色体の構成を細胞遺伝学的に解明する。		
⑤ 超音波霧化プロセスによるシルク微粒子バイオコーティング技術の開発と評価	桐蔭横浜大学 専任講師 石河 睦生	1,500 千円
超音波霧化は低温・低ダメージで3D形状基材にも均一な被膜形成が可能である。そこでシルク微粒子を用い超音波霧化により生体適合性および環境調和性を有する機能性被膜を基材表面に形成する手法を提案し、その機能性と耐久性を評価する。超音波処理は分散と霧化の二段階で行い、まずシルクパウダーを塗布用に水中で微粒子安定分散させる条件を明らかにする。次に機能の異なるフィブロインとセリシンを積層コーティングする最適条件を導出する。植物基材上での被膜性と鮮度保持の関係や経時的変化を報告にまとめる。		
⑥ ニット制作に適したスパンシルクの開発	信州大学 教授 塩見 邦博	1,500 千円
カイコ蛹をワクチンなど医薬食へ利用して生じる切繭や規格外繭の有効利用として、スパンシルク（短繊維スライバー）を作製し、最終的にニットを制作する無駄のない「儲かる養蚕システム」の構築を目指す。スパンシルクにはゲノム編集カイコのものや野蚕シルク・綿との混紡スライバーも利用し、ニットの物性・官能試験を通してニット生産に適した特徴あるスパンシルクの作製方法を検討する。		
⑦ 遺伝子組み換え技術を使わない青い繭の作成～若い世代にアピールできる絹製品～	山脇学園中学校・高等学校 サイエンス教育部副部長 福満 晋	994 千円
本研究チームは2016年に人工飼料に色素を混ぜカイコに食べさせることでフィブロインにも色がついた繭の作成に成功した。5令のカイコに1回～2回色素を加えた人工飼料を食べさせるだけの非常に簡単な方法で普及させやすい。今回はまだ誰もできていない青色の繭をつくりたい。後で染色した絹糸が落ち着いた着物などに合う色調になるのに対して、この方法で作った絹糸は鮮やかな蛍光色をもつ。この絹糸を使って若者に好まれるドレスやインテリア製品を作り普及させることにより、国内の養蚕業の復興の助力としたい。		

⑧ 補充療法におけるシルクフィブロインゲルを用いた薬剤の効果的かつ持続的投与技術の開発	株式会社チャーリーラボ 研究員 上田 理香	1,500 千円
酵素やインスリンなど、不足するタンパク質成分を補充する治療では、タンパク質製剤の活性を保持しつつ、徐々に放出する生体吸収性高分子基剤が開発されている。しかし、機械的強度不足、分解産物による毒性、基剤への免疫反応などの問題がある。申請者らは、シルクフィブロイン（以下、S F）の分子量・結晶性制御技術を有しており、多様なS Fゲルの調製が可能である。本研究では、生体適合性の高いS Fゲルを基剤とし、機械的強度、分解性を最適化し、タンパク質製剤の効果的・持続的発揮を促す技術を開発する。		
⑨ 国産繭を用いたシルクフィルからの簡易な紡糸技術の開発と製品	シルクライン 代表 林 久美子	985 千円
紬用の中国輸入糸の価格高騰と品質低下、国産真綿従事者の不足と技術力の特殊性を解消するものとして、今研究では、真綿にかわる綿状絹のシルクフィルを用い、簡易で効率的に純国産紡ぎ糸を製作する技術を開発し、その糸を利用した新しい紬製品づくりを行う。また従来の真綿の紡ぎ糸とシルクフィルによる糸・織物双方の物性比較を行い、シルクフィル織物の有効性を明らかにする。新たな紡ぎ糸を用いた用途に応じた付加価値のある紬織物の創出は、国産繭の用途拡大に繋がるものと期待する。		

貞明皇后研究助成の応募方法等の詳細は、本会ホームページの「貞明皇后蚕糸記念科学技術研究助成」を参照してください。

■次回 令和9年度 貞明皇后研究助成 年間スケジュール（予定）

募 集 期 間	令和8年12月1日～令和9年1月31日
選 考	令和9年4月下旬 蚕糸褒賞等選考委員会にて選考
助 成 決 定 の 通 知	令和9年5月上旬
研 究 助 成 実 施 期 間	令和9年5月1日～令和10年2月29日
助 成 金 の 支 払 い	令和9年5月下旬
実 績 報 告 書 の 提 出 締 切	令和10年3月1日
助 成 金 額 の 確 定 作 業	令和10年3月上旬～中旬
研 究 成 果 報 告	令和10年4月下旬 完了報告動画の提出（本会ホームページに掲載します。）

2026 年度第 1 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの 2026 年度第 1 次審査委員会を 2026 年 5 月 28 日(木)に開催しました。今回の申請は 6 者で、使用許諾されている 6 者のうち製品の追加 1 者 6 品目、履歴の追加 4 者 5 品目、数量の追加 2 者 2 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、6 者 13 品目に対し、6 月 4 日(木)付けで純国産絹マークを使用許諾する旨、通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	主な取り扱い蚕品種(製糸会社のみ) / 履歴の内容(繭生産地・企業等)
(株) 高島屋 代表者名：村田善郎 (担当者：尾上崇、大西隆寿) 〒 542-8510 大阪市中央区難波 5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030	(製品の追加) 後染反物(被布)	3 反	繭生産 JA なす南管内養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 美雲織物(株) 染色加工 (株) 千總
	(数量の追加) 後染反物(振袖)	2 反	繭生産 JA なす南管内養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 篠春織物(株) 染色加工 (株) 千總
	(製品の追加) 先染帯地(袋帯)	5 本	繭生産 JA なすの・西予市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株)・ 西予市野村シルク博物館 染 色 (有) 宏和染工所 製 織 (株) 龍村美術織物
	(製品の追加) 先染帯地(袋帯)	5 本	
	(製品の追加) 先染帯地(袋帯)	5 本	
	(製品の追加) 先染帯地(袋帯)	5 本	
	(製品の追加) 先染帯地(袋帯)	5 本	繭生産 JA 北つくば・JA なすの・ 製 糸 西予市管内養蚕農家 碓氷製糸(株)・ 西予市野村シルク博物館 染 色 (有) 宏和染工所 製 織 (株) 龍村美術織物

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	主な取り扱い蚕品種（製糸会社のみ）/ 履歴の内容（繭生産地・企業等）
(履歴の追加) 大月俊幸 代表者名：大月俊幸 (担当者：大月俊幸) 〒 399-8305 長野県安曇野市穂高牧 1956-2 TEL：0263-83-7890 表示者登録番号 236	先染帯地 (名古屋帯)	22 本	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA はが野管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 染 織 自工房
(履歴の追加) 久保原由佳理 代表者名：久保原由佳理 (担当者：大月俊幸) 〒 399-8305 長野県安曇野市穂高牧 1956-2 TEL：0263-83-7890 表示者登録番号 237	先染帯地 (名古屋帯)	7 本	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA はが野管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 染 織 自工房
	先染着尺 (信州紬)	9 反	
(履歴の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名：小林幸夫 (担当者：間野和之) 〒 370-0006 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 TEL：027-361-2377 表示者登録番号 021	裏地（胴裏絹）	300 枚	制作企画 絹小沢（株） 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 製 織 齋栄織物（株） 精練加工 鈴津
(履歴の追加) (同) COCON 代表者名：田中隆 (担当者：田中隆) 〒 575-0003 大阪府四條畷市岡山東 5-5-32 TEL：072-876-0774 表示者登録番号 252	絹靴下	100 足	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 利根沼田管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 製編・縫製 タビオ（株）

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	主な取り扱い蚕品種（製糸会社のみ）/ 履歴の内容（繭生産地・企業等）
(数量の追加) (株) 伊と幸 代表者名：北川幸 (担当者：北川幸) 〒 604-8176 京都市中京区御池通室町東入竜池町 448-2 TEL：075-211-2361 表示者登録番号 035	白生地（帯地）	250 本	蚕品種 松岡姫 繭生産 JA ふくしま未来管内養蚕農家 製 糸 (株) 宮坂製糸所 製 織 奥田重之織物

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。

純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 2026 年度第 2 次：2026 年 8 月 26 日（水）

純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：2026 年 7 月 24 日（金）

(連絡先)

〒 100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

一般財団法人 大日本蚕糸会

担当：岡島、伊藤

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3415

E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

伊藤：ito@silk.or.jp

月日	活 動 内 容 等
4/8	第 1 回常勤理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
4/13	和文化・産業連携振興協議会定例会 (農林水産省農産局 会議室)
4/15	令和 7 年度蚕糸科学技術研究所 研究業務報告会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
4/22	令和 8 年度蚕糸褒賞等選考委員会 (研究助成選考部会) (東京都有楽町 蚕糸会館)
5/11	和文化・産業連携振興協議会定例会 (農林水産省農産局 会議室)
5/13	第 2 回常勤理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
5/20	令和 8 年度蚕糸褒賞等選考委員会 (表彰選考) (東京都有楽町 蚕糸会館)
5/22	令和 8 年度持続的蚕糸業確立支援事業 第 1 回事業審査委員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
5/28	純国産絹マーク審査委員会 (2026 年第 1 次) (東京都有楽町 蚕糸会館)
6/3	監事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
6/5	通常理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
6/10	第 3 回常勤理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
6/22	和文化・産業連携振興協議会定例会 (農林水産省農産局 会議室)
6/23	定時評議員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)

統計資料の年間掲載計画

＜国内＞	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
＜海外＞				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	34
(2) 養蚕農家数の推移	35
(3) 繭生産数量の推移	36
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	37
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	38
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	
(11) 製糸工場の原料繭需給	39
(12) 製糸工場の操業状況	40
(13) 生糸在庫数量の内訳	41
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	
(15) 生糸の原産国別輸入数量	
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	
(18) 絹織物生産数量	42
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	43

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	45
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	46

一 資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 Item 暦年 Calendar Year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2005	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2010	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013	486	168	346	0.4	9	35	32.0	2,940
2014	393	149	379	0.4	9	35	—	2,734
2015	368	135	367	0.4	8	30	—	2,316
2016	349	130	372	0.3	8	26	—	2,243
2017	336	125	372	0.3	8	28	—	2,195
2018	293	110	375	0.3	8	46	—	2,113
2019	264	92	348	0.3	8	36	—	1,939
2020	228	80	351	0.2	8	31	—	1,214
2021	186	61	328	0.2	7	20	—	1,319
2022	163	51	313	0.2	7	22	—	1,444
2023	146	45	308	0.2	7	33	—	1,242
2024	134	38	284	0.1	7	31	—	1,110
2025	113	31	274	0.1	7	30	—	—
前年比(%) 2025/2024	84.3	81.6	96.5	100.0	100.0	96.8	—	—

資料：・2008年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

・2009年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査、2011年以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。

・2009年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査、2018年11月以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。

・2008年以前の絹業は経済産業省調査であり、2009年以降絹業は(一社)日本絹人織機物工業会調査である。

(注) 2006年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、2002年以降はすべての製糸工場のものである。

Source：・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)

・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009). The Dainippon Silk Foundation (after 2011)

・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009) The Dainippon Silk Foundation (after Nov. 2018)

・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008). Japan Silk & Rayon Weaver's Association (after 2009)

Note: Silk Fabric Production from 2006 includes spun silk fabrics.

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

項 目 Item 暦 年 Calendar Year	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
2000	3,280	2,970	2,170	2,700
2005	1,591	1,420	1,061	1,345
2010	756	650	494	637
2011	627	562	358	531
2012	571	514	319	462
2013	486	422	260	399
2014	393	359	230	328
2015	368	323	221	313
2016	349	310	209	310
2017	336	307	201	280
2018	293	254	179	262
2019	264	233	153	224
2020	228	205	129	188
2021	186	161	98	156
2022	163	146	89	142
2023	146	126	78	130
2024	134	122	74	113
2025	113	105	49	93
前年比 (%)				
2025/2024	84.3	86.1	66.2	82.3

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年）（一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

項 目 Item 暦 年 Calendar Year	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157
2005	626	243	165	218	396	171	156	162
2010	265	107	60	98	351	165	121	154
2011	220	95	49	76	351	169	136	143
2012	202	79	50	73	354	155	156	159
2013	168	61	41	67	346	145	158	168
2014	149	55	36	58	379	153	157	176
2015	135	49	32	54	368	151	147	174
2016	130	47	32	50	372	153	155	162
2017	125	47	29	49	372	153	144	175
2018	110	41	24	46	375	161	134	176
2019	92	35	22	35	348	150	144	156
2020	80	31	19	30	351	151	147	160
2021	61	22	15	24	328	137	153	154
2022	51	20	13	18	313	137	146	127
2023	45	17	11	17	308	135	141	131
2024	38	16	10	13	284	131	135	115
2025	31	13	7	11	274	124	143	118
前年比(%) 2025/2024	81.6	81.3	70.0	84.6	96.5	94.7	105.9	102.6
2025年 構成比(%)	100.0	41.5	23.2	35.3				

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年） （一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2015	378	6,479	—	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	—	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,557	1,747	14,560	245	4,897	4,785
2018	339	5,038	1	5,793	1,330	11,092	213	4,151	4,854
2019	269	4,852	4	5,018	1,429	10,920	165	3,893	4,750
2020	203	2,443	—	3,009	1,066	6,226	167	2,551	3,635
2021	160	3,067	—	3,425	868	6,136	144	2,753	3,850
2022	168	3,646	1	3,754	927	7,945	182	2,803	3,726
2023	154	2,936	—	3,158	859	7,495	137	2,515	3,213
2024	131	2,763	—	2,882	871	6,251	177	2,307	3,005
2025	128	2,086	0	2,250	757	5,626	173	2,089	2,814
2024 - 1	11	234	—	223	881	492	6	262	203
2	13	290	—	263	921	438	12	139	241
3	10	335	—	343	923	352	20	143	284
4	8	—	—	22	909	557	13	220	262
5	11	366	—	426	860	545	4	212	322
6	10	196	—	177	889	351	25	213	247
7	15	352	—	512	744	746	7	225	249
8	12	170	—	121	805	507	26	164	210
9	14	226	—	226	819	516	3	213	245
10	8	158	—	82	903	488	31	184	253
11	10	284	—	290	907	702	18	183	251
12	9	151	—	196	871	557	14	147	237
2025 - 1	13	206	—	276	814	513	20	205	161
2	10	110	—	120	814	564	12	135	247
3	13	334	—	318	843	387	12	165	245
4	12	—	—	10	845	547	10	165	251
5	6	279	—	377	753	680	7	220	251
6	9	197	—	163	796	448	8	135	245
7	14	207	—	136	803	500	9	208	259
8	8	91	—	125	777	284	6	146	178
9	11	193	—	288	693	430	18	153	215
10	10	120	—	35	788	350	11	179	308
11	10	170	0	225	743	418	42	214	225
12	12	179	—	177	757	504	17	164	230
2026 - 1	8	115	—	136	744	450	13	152	198
2	5	123	—	108	764	524	11	211	171
3	6	352	—	403	719	289	26	110	226
4	—	—	—	—	—	495	26	143	229

資料：(A) (C) (D) 中央蚕糸協会（2012.12～2018.10）（一財）大日本蚕糸会（2018.11～）(B) (F) (G) (H) (I) 財務省関税局

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：(A) (C) (D) (E) Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

(B) (F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries (D) = {Stock at end of the previous month + (A) + (B)} - {(C) + (E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import						計 ③ Total	輸 出 Export				内 需 Domestic Demand ②-③	在庫 Ending Stocks ④	
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	生 糸 Raw Silk		絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45
2016	240	45	0	195	7	12	14	162	195	15	0	0	9	6	180	45
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	21	0	0	11	10	172	45
2018	205	45	0	160	5	11	8	135	160	26	0	0	10	16	134	45
2019	206	45	0	161	5	11	8	137	161	25	0	0	10	15	136	45
2020	182	45	0	137	2	6	6	123	137	27	0	0	8	19	110	45
2021	175	45	0	130	3	6	6	115	130	24	0	0	8	16	106	45
2022	173	45	0	128	4	8	6	110	128	22	0	0	8	14	106	45
2023	166	45	0	121	3	7	6	105	121	20	0	0	7	13	101	45
2024	158	45	0	113	3	6	5	99	113	11	0	0	7	4	102	45
2025	151	45	0	106	2	6	4	94	106	11	0	0	7	4	95	45
前年比 (%) 2025/ 2024	96	100	—	94	67	100	80	95	94	100	—	—	100	100	93	100

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

備考：2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

Remarks: Starting in 2013, the ending inventory will be set at 45,000 bags.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills (単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2015		116	159	115
2016		115	110	120
2017		103	120	103
2018		92	117	78
2019		89	97	70
2020		72	73	69
2021		55	57	67
2022		46	59	54
2023		43	50	37
2024		39	46	27
2025		47	49	25
2024 -	1	1	4	35
	2	0	4	31
	3	0	4	27
	4	0	3	24
	5	3	3	24
	6	8	4	25
	7	10	6	29
	8	3	4	27
	9	1	5	23
	10	13	3	33
	11	0	4	29
	12	1	3	27
2025 -	1	1	5	23
	2	1	4	20
	3	1	5	16
	4	1	5	12
	5	1	2	11
	6	8	4	15
	7	10	5	20
	8	0	3	17
	9	4	4	17
	10	10	4	23
	11	8	4	27
	12	2	4	25
2026 -	1	1	3	23
	2	1	2	22
	3	1	2	21

資料：中央蚕糸協会 (2012. 12～2018. 10) (一財) 大日本蚕糸会 (2018. 11～)

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：Central Raw Silk Association (2012. 12～2018. 10). The Dainippon Silk Foundation (2018. 11～)

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況 Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運 転 工 場 数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操 業 日 数 Days Operated	従 業 者 数 Number of Workers
			運 転 可 能 Operable	運 転 Operating			
曆 年 Calendar Year							
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	8	110	29	26	267	55
	2017	8	110	31	28	266	59
	2018	8	74	34	46	253	57
	2019	8	74	27	36	239	51
	2020	8	74	23	31	218	48
	2021	7	74	15	20	214	43
	2022	7	64	14	22	230	41
	2023	7	44	15	34	235	41
	2024	7	44	13	31	265	34
	2025	7	42	13	30	219	41
2024 -	1	7	44	14	32	17	41
	2	7	44	13	30	20	41
	3	7	44	13	30	19	41
	4	7	44	9	20	20	40
	5	7	44	12	32	19	40
	6	7	44	15	34	21	43
	7	7	44	17	39	22	43
	8	7	42	18	43	17	20
	9	7	42	12	29	31	20
	10	7	42	13	31	30	20
	11	7	42	10	24	29	20
	12	7	42	13	31	20	38
2025 -	1	7	42	17	40	20	38
	2	7	42	16	38	18	40
	3	7	42	18	43	16	41
	4	7	42	21	20	19	41
	5	7	42	8	19	16	41
	6	7	42	14	33	19	41
	7	7	42	13	30	22	42
	8	7	42	12	29	15	35
	9	7	42	12	29	17	41
	10	7	42	13	30	21	42
	11	7	42	11	26	18	42
	12	7	42	11	26	18	42
2026 -	1	7	42	14	33	14	41
	2	7	42	12	29	15	41
	3	7	42	9	21	18	41

資料：中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10).The Dainippon Silk Foundation(2018.11～)

Remarks：1.The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2.Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3.Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位 : 60kg俵)
(Unit : Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸流通業者 silk distributor
2015		1,410	94	1,316
2016		1,406	130	1,276
2017		1,747	156	1,591
2018		1,330	230	1,100
2019		1,429	238	1,191
2020		1,066	178	888
2021		868	170	698
2022		927	127	800
2023		859	144	715
2024		871	128	743
2025		757	107	650
2024 -	1	881	138	743
	2	921	138	783
	3	923	138	785
	4	909	133	776
	5	860	133	727
	6	889	136	753
	7	744	138	606
	8	805	137	668
	9	819	137	682
	10	903	130	773
	11	907	130	777
	12	871	128	743
2025 -	1	814	128	686
	2	814	127	687
	3	843	121	722
	4	845	122	723
	5	753	118	635
	6	796	117	679
	7	803	117	686
	8	777	117	660
	9	693	113	580
	10	788	113	675
	11	743	111	632
	12	757	107	650
2026 -	1	744	105	639
	2	764	99	665
	3	719	98	621

資料 : 中央蚕糸協会 (2012.12~2018.10) (一財) 大日本蚕糸会 (2018.11~)

Source : Central Raw Silk Association (2012.12~2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11~)

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422
2018	2,113	1,151	619	45	487	578	272	306	384
2019	1,939	1,128	583	43	502	521	242	279	290
2020	1,214	697	460	15	222	364	169	195	153
2021	1,319	840	587	9	244	336	128	208	143
2022	1,444	1,016	716	0	300	280	72	208	148
2023	1,242	817	548	0	269	288	82	206	136
2024	1,110	675	445	0	230	323	126	197	112
2024 - 1	94	58	44	0	14	26	10	16	9
2	96	56	40	0	16	27	11	16	12
3	93	56	44	0	12	28	11	17	10
4	93	54	42	0	12	29	12	17	10
5	103	66	36	0	30	28	11	17	9
6	92	54	34	0	20	28	11	17	9
7	95	52	35	0	17	29	12	17	13
8	71	40	30	0	10	23	8	15	7
9	84	46	32	0	14	28	11	17	10
10	95	61	36	0	25	28	11	17	7
11	101	68	36	0	32	25	9	16	7
12	94	61	35	0	26	24	9	15	8
2025 - 1	88	57	43	0	14	23	8	15	7
2	81	45	34	0	11	26	10	16	10
3	90	56	45	0	11	24	10	14	9
4	86	51	32	0	19	26	10	16	9
5	95	62	40	0	22	25	10	15	8
6	86	51	30	0	21	25	10	15	10
7	84	52	41	0	11	24	9	15	8
8	70	44	31	0	13	22	9	13	5
9	73	40	30	0	10	25	10	15	9
10	92	59	37	0	22	26	10	16	8
11	84	54	32	0	22	24	10	14	6
12	88	57	38	0	19	23	9	14	8
2026 - 1	81	49	34	0	15	24	9	15	8
2	70	38	29	0	9	24	9	15	8
3	80	48	37	0	11	24	10	14	8
4	93	59	45	0	14	24	10	14	9

資料：(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

備考：1. 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

2. 2025年分までデータ補正がある。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

Remarks：1. Spun and mixed fabrics included. Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

2. Data are corrected until 2025.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2018	2,113	96.3	282,158	95.8	36,316	100.2	426,796	89.4
2019	1,939	91.8	253,429	89.8	27,584	76.0	380,224	89.1
2020	1,214	62.6	154,333	60.9	10,852	39.3	260,360	68.5
2021	1,319	108.6	153,627	99.5	12,321	113.5	303,511	116.6
2022	1,444	109.5	158,982	103.5	11,988	97.3	281,796	94.4
2023	1,242	86.0	147,196	92.6	11,657	97.2	254,378	90.4
2024	1,110	89.4	132,320	89.9	9,976	85.6	206,760	81.3
2025			108,806	82.2	8,025	80.4	182,433	88.2
2024 - 1	94	88.3	8,032	85.0	885	87.5	14,648	61.1
2	96	96.8	13,377	103.8	1,043	124.8	17,070	86.2
3	93	89.4	11,675	97.6	999	110.9	18,682	73.4
4	93	83.0	12,093	90.7	997	113.6	20,584	86.9
5	103	91.2	10,096	84.9	722	60.3	21,751	99.9
6	92	83.6	13,031	96.4	702	73.7	16,369	68.4
7	95	95.0	10,794	81.8	876	78.1	15,860	84.9
8	71	70.3	8,492	94.9	546	63.9	13,324	82.0
9	84	90.3	12,063	84.9	921	134.6	17,628	90.6
10	95	93.1	9,186	74.4	921	93.1	17,386	86.1
11	101	94.4	12,377	99.8	684	66.4	18,223	84.8
12	94	98.9	11,104	85.2	680	56.5	15,253	77.5
2025 - 1	88	93.6	6,913	86.1	680	76.8	14,152	96.9
2	81	84.4	11,714	87.6	702	67.3	13,393	79.5
3	90	96.8	8,227	70.5	878	87.9	15,781	84.3
4	86	92.5	9,550	79.0	718	72.0	18,671	88.7
5	95	92.2	8,975	88.9	522	72.3	21,545	101.1
6	86	93.5	10,252	78.7	768	109.4	17,460	104.7
7	84	88.4	9,400	87.1	647	73.9	16,341	103.0
8	70	98.6	7,040	82.9	503	92.1	10,685	78.3
9	73	86.9	9,970	82.6	811	88.1	14,627	86.1
10	92	96.8	8,725	95.0	708	76.9	13,407	75.4
11	84	83.2	9,139	73.8	545	79.7	13,103	72.6
12	88	93.6	8,901	80.2	543	79.9	14,016	91.7
2026 - 1	81	92.0	6,305	91.2	442	65.0	13,431	92.9
2	70	86.4	9,300	79.4	589	83.9	11,958	89.3
3	80	88.9	8,269	100.5	683	77.8	14,458	82.2
4	93	108.1	8,694	91.0	724	100.8	16,023	95.0
5			8,217	91.6	539	103.3		

資料 : 絹織物生産数量は(一社)日本絹人織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備考 : 1. 西陣は京都府織布生産動態調査数値の修正により前年比が合わない場合がある。

2. 絹織物生産数量の数値は2025年分までデータ補正がある。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

The numbers of Production and Shipments of 3major producing areas are reported by their local unions.

Remarks : 1. Ratio to previous year in Nishijin may become incorrect if there is a correction in the statistical survey on the production dynamics of woven fabrics in Kyoto prefecture.

2. The figures of silk fabric production quantity are corrected until 2025.

— 資料・海外 —

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2019年	2020年	2021年
		トン	トン	トン
日本	Japan	92	80	61
中国	China	201,572	156,690	136,964
インド	India	185,143	169,345	187,241
ウズベキスタン	Uzbekistan	21,374	20,942	22,770
イラン	Iran	1,407	1,756	1,653
タイ	Thailand	5,011	3,715	3,593
ブラジル	Brazil	3,047	2,742	2,211
ベトナム	Vietnam	11,855	14,937	16,444
北朝鮮	North Korea	2,643	2,643	2,643
トルコ	Turkey	90	90	76
ブルガリア	Bulgaria	-	-	-
インドネシア	Indonesia	18	18	21
シリア	Syria	1	1	2
主要国の計	Total	432,253	372,959	373,679

区 分		2022年	2023年	2024年
		トン	トン	トン
日本	Japan	51	45	38
中国	China	146,560	146,867	147,000
インド	India	199,752	215,642	
ウズベキスタン	Uzbekistan	24,300	25,886	30,066
イラン	Iran	1,798	1,772	1,800
タイ	Thailand	3,107	2,079	2,000
ブラジル	Brazil	1,807	1,715	1,581
ベトナム	Vietnam	16,824	17,727	15,884
北朝鮮	North Korea	2,643	2,643	2,581
トルコ	Turkey	69	78	85
ブルガリア	Bulgaria	-	-	-
インドネシア	Indonesia	21	23	23
シリア	Syria	1	1	1
主要国の計	Total	396,933	414,478	201,059

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)の統計値をそれぞれ使用、
それ以外の国は国連食糧農業機関(FAO)の統計値を使用した。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Others than these countries, based on the data of Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO).

(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格 Spot Price of Various Silk Goods

2026年2月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	135.00 ~ 157.00	2,970 ~ 3,454
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	154.00 ~ 189.00	3,388 ~ 4,158
3	玉繭(double cocoon)		97.00 ~ 123.75	2,134 ~ 2,723
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	118.00 ~ 158.00	2,596 ~ 3,476
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	447.00 ~ 510.00	9,834 ~ 11,220
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	458.00 ~ 520.00	10,076 ~ 11,440
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	443.00 ~ 482.00	9,746 ~ 10,604
8	玉糸(doupion silk)	110d	439.00 ~ 457.00	9,658 ~ 10,054
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	38.50 ~ 46.50	847 ~ 1,023
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.00 ~ 71.00	1,342 ~ 1,562
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.00 ~ 57.00	1,122 ~ 1,254
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	43.00 ~ 50.00	946 ~ 1,100

注:1元=22円

1 CNY=22JPY

2026年3月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	133.75 ~ 155.75	3,076 ~ 3,582
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	152.75 ~ 186.50	3,513 ~ 4,290
3	玉繭(double cocoon)		97.00 ~ 123.75	2,231 ~ 2,846
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	118.50 ~ 158.00	2,726 ~ 3,634
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	445.50 ~ 509.50	10,247 ~ 11,719
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	455.50 ~ 519.50	10,477 ~ 11,949
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	443.00 ~ 482.00	10,189 ~ 11,086
8	玉糸(doupion silk)	110d	436.75 ~ 456.75	10,045 ~ 10,505
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	38.50 ~ 46.50	886 ~ 1,070
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.00 ~ 71.00	1,403 ~ 1,633
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.00 ~ 57.00	1,173 ~ 1,311
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	43.00 ~ 50.00	989 ~ 1,150

注:1元=23円

1 CNY=23JPY

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

2026年4月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	133.00 ~ 155.00	3,059 ~ 3,565
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	152.00 ~ 185.00	3,496 ~ 4,255
3	玉繭(double cocoon)		97.20 ~ 123.75	2,236 ~ 2,846
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	120.00 ~ 158.00	2,760 ~ 3,634
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	444.00 ~ 508.00	10,212 ~ 11,684
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	451.00 ~ 518.00	10,373 ~ 11,914
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	443.00 ~ 482.00	10,189 ~ 11,086
8	玉糸(doupion silk)	110d	436.00 ~ 456.00	10,028 ~ 10,488
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	37.50 ~ 46.00	863 ~ 1,058
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.00 ~ 71.00	1,403 ~ 1,633
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.00 ~ 57.00	1,173 ~ 1,311
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	43.00 ~ 50.00	989 ~ 1,150

注:1元=23円

1CNY=23JPY

2026年5月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	133.00 ~ 155.00	3,059 ~ 3,565
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	151.25 ~ 183.50	3,479 ~ 4,221
3	玉繭(double cocoon)		96.25 ~ 123.19	2,214 ~ 2,833
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	120.00 ~ 158.00	2,760 ~ 3,634
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	442.50 ~ 506.25	10,178 ~ 11,644
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	449.25 ~ 516.25	10,333 ~ 11,874
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	440.50 ~ 478.00	10,132 ~ 10,994
8	玉糸(doupion silk)	110d	435.25 ~ 455.25	10,011 ~ 10,471
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	37.25 ~ 45.75	857 ~ 1,052
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	60.75 ~ 70.75	1,397 ~ 1,627
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	50.75 ~ 56.75	1,167 ~ 1,305
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	42.75 ~ 49.75	983 ~ 1,144

注:1元=23円

1CNY=23JPY

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<https://silk.or.jp>

シルクレポート 2026 年 7 月号 No.90 令和 8 年 7 月 1 日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3415

URL : <https://silk.or.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず